

第十三回
外国人留学生作文コンテスト
入賞作品集



香川県留学生等国際交流連絡協議会

目次

【優秀作】

- 「素敵な香川」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 1 ～ 3
香川大学 教育学研究科 SHEN QIAN QIAN(中国)

【佳作】

- 「美しい香川」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 4 ～ 5
香川大学 経済学部 陳 保吉(台湾)
- 「魅力的な香川」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 6 ～ 7
香川大学 経済学部 邱 意婷(台湾)
- 「香川県でサイクリングしてみませんか」・・・・・・・・・・p. 8 ～ 9
穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 EDYANTO(インドネシア)
- 「大好きなサンポート」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 10 ～ 11
穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 NEUPANE SHREEDHAR(ネパール)
- 「交流がもっと広がっていく道へ」・・・・・・・・・・・・・・・・p. 12
穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 MACIAS CINTIA NOEMI(アルゼンチン)
- 「私の国と日本の交流についての考え」・・・・・・・・・・・・p. 13
穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 DANG NGOC THUY VI(ベトナム)
- 「高松市と瀬戸内海のツアー」・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 14
香川大学 経済学部 KEVIN QUETSCH(ドイツ)

【審査委員特別賞】

- 「さぬきうどんとさぬきうどんの歴史」・・・・・・・・・・・・p. 15～16
香川大学 工学研究科 LEE JOO-HYEONG(韓国)
- 「インドネシアと日本」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 17
高松大学 経営学部 ANDY ACHMAD RIVALDI(インドネシア)
- 「母国の人に紹介したい香川の良さ」・・・・・・・・・・・・・・p. 18～19
香川大学 農学研究科 AFROZA SULTANA(バングラデシュ)

審査委員

- | | |
|-------------|---------------------|
| ◆ 高水 徹(委員長) | 香川大学インターナショナルオフィス講師 |
| ◆ 丹羽 章 | 四国学院大学文学部教授 |
| ◆ 平岡 三千雄 | 高松大学発達科学部子ども発達学科准教授 |
| ◆ 畑 ゆかり | 穴吹ビジネスカレッジ日本語教務部主任 |

「素敵な香川」

香川大学 教育学研究科 SHEN QIAN QIAN

私は中国の大連市から来た留学生です。幼い頃から日本のアニメが大好きで、そのことに影響されて、大学では日本語を専攻しました。在学中に、初めて村上春樹の「ノルウェイの森」を読み、知らない世界に触れて感動させられました。この時から、日本という国に行ってみたく強く思うようになりました。そして、大学4年生の実習期間を利用して、日本への留学を実現させました。日本に来るまでは、自然の景色や歴史的な建物、豊かな文化が保存されているとは考えていませんでした。しかし香川県に来て、想像とは違うことに気づき、衝撃を受けました。その数々の思い出は、私の心の中に強く残っているので、紹介したいと思います。

日本に来て、2年半ほど経ちました。1年間は福岡の日本語学校に通っていましたが、それから香川大学大学院に入学しました。香川県で既に1年半生活してきましたが、その間に、香川県の色々な場所を巡りました。その中でも塩江にあるセカンドステージは「自然の恵みとともにくらす、こころのふるさと」というスローガンそのもので、感銘を受けました。

友人と一緒に現地に着くまでは、そのスローガン通りかどうか疑問に思っていたましたが、セカンドステージに着くと、本当に綺麗な景色が目の前に広がっていて驚きました。バーベキューをしながら、新緑の山々に抱かれた湖や、湖面が太陽でキラキラしている景色を見て、心が動かされ、本当に素晴らしいと思いました。このような景色を見ているうちに生活の悩みがあつという間に消えたように感じました。

そして、綺麗な景色を楽しんだ後、香川県の名物「讃岐うどん」を作りました。その手打ちうどんは、みんなで一緒に手を使って、小麦粉の中に水を加えてかき混ぜて生地を作り、次に足を使って、踏みながらコシのあるうどんを作ります。これは私にとって初めての体験で、思い出に残る楽しいものでした。それから、最後に塩江の温泉郷に行きました。塩江の温泉は室内と室外両方があり、狭いところでしたが、人が多くて、ロッカーが足りないくらいでした。温泉は心にも体にも良いものです。特に温泉は女性にとって、一番良い化粧品だと思っています。私自身も温泉に入ると、肌が綺麗になるとともに、日常的なストレスが全部なくなっていました。

小豆島も塩江に負けないくらい素敵な場所でした。秋の季節に、寒霞溪という有名な場所を訪れました。寒霞溪は、日本三大溪谷美のひとつに数えられています。

ロープウェーに乗って、山の上から下まで降りていく途中の道で、山全体が秋の季節に満ちていて、特に寒霞溪周辺の奇岩に沿った紅葉は美しかったです。そんな紅葉を中国で見た経験はなく、初めて目にして本当に感動しました。

この景色だけではなく、小豆島の食文化も素晴らしかったです。私が訪れたのは、小豆島の小さなお醤油屋さん「ヤマロク醤油」です。醤油造りは、400年もの歴史を持つ小豆島の伝統産業だと聞きました。明治の最盛期には約400軒もの醤油醸造所があったそうです。今も20軒以上の醤油蔵や佃煮工場がある「醬の郷」という所では、昔からの製法が受け継がれ、町の中は芳ばしい醤油の香りで包まれていました。ここの醤油をお土産としていただきましたが、中国の観光地では普通、高い金額を払わなければ買えないようなものでした。そのような気遣いに、心を動かされました。その醤油の味は、普段使っている醤油よりさっぱりしていると感じました。食べながら、自分が山の中に住んでいる感覚に陥るほど、壮大な味がしました。

また小豆島では、美容に良いとされているオリーブオイルも買いました。オリーブオイルは、古くから「不老長寿の薬」と呼ばれ、美容や健康に関心のある人々の注目を集めてきたそうです。高い保湿効果を持っていると聞いたことも、購入につながりました。オリーブオイルの保湿効果は、聞いていた以上でした。肌につけた瞬間からずっと吸収されて、優れた保湿効果が感じられました。私は中国人で、黄色い肌です。白い肌に憧れがあったため、その時オリーブオイルをたくさん買いました。実際に使ってみると、肌が水々しくなったことを実感できて嬉しかったです。

最後に、「二十四の瞳映画村」へも行きました。そこは、名作映画「二十四の瞳」のロケセットがそのまま残してある村でした。昔ながらの街並みが、小豆島ののんびりとした雰囲気にとりまき、爽やかな気分になりました。タイムスリップしたような気分になって、気持ちが高揚しました。私は、その校庭から見えた海の景色が忘れられません。「二十四の瞳」は、小豆島出身の作家、壺井栄の名作だと聞きました。そこの残されていたロケセットも、昭和62年に公開された、田中裕子主演の映画を作った際に、用いられていたものだそうです。現在、私は教育学研究科の学生であるため、その校舎を見ながら、考えさせられたことがありました。それは、今の時代の子供たちが恵まれた環境で学んでいるのに比べて、その当時の子供たちは、どのような苦しい状況でも勉強のために真面目に学んでいたのだな、ということでした。だから、小豆島から帰ってきて以来、自分ももっと一生懸命勉強に励むべきという考えになりました。

このように様々な場所を巡りながら、香川県は、たくさんの美しい景色や先人の文化がありのままで存在している所だということが、私の心に深く刻み込まれました。周知のように、今日の中国は経済発展するとともに、大気汚染が非常に深刻な社会問題になっています。また、中国の歴史的な文化はそのまま保存されているものもありますが、一部では時代に合わせて変わってしまったものもあります。現在、日本への留学生として、外から中国を見ると、中国のいろいろな側面がまだまだ不

十分だと感じられました。そのため、日本で勉強した知識や体験した文化を中国に持ち帰り、日本のよいところを中国で広めていきたいです。そして、中日友好の架け橋になることに、自分の力を注ぎたいと思います。

「美しい香川」

香川大学 経済学部 陳 保吉

日本へ留学に来る前に、香川県はうどんがかなり有名なところという印象を持っていました。実際に、香川県は私が知らなかった美しいところや良いところがたくさんあります。

私がこの一年間住んでいる学生寮の近くにある「屋島」は香川県高松市の東北に位置し、高松市のシンボルです。初めて屋島の学生寮に着いた時、屋根のような独立峰に目を引かれました。屋島という名称はその山の形に由来するそうです。学生寮から屋島までとても近いので、毎日寮を出る時、その山が見えます。そして、たくさんの緑が残っている屋島は冬が近づいてきた時、一部の緑が次第に黄色や赤に変わりました。そのきれいな景色が毎日見える私は屋島に目を奪われ、本当に幸せだと思っています。それに、屋島の頂上にのぼったら、驚かされる風景が見えます。

香川県には文化的・芸術的な美しさもあります。一番有名なのは三年に一回の瀬戸内芸術祭でしょう。今年はちょうどそのイベントが行われていた一年です。私はとても幸運だと思いながら、そのイベントに参加しました。いろいろな素敵な作品も見ることができるし、瀬戸内海の自然風景も体験できます。たくさんの芸術作品を同じ場所で集中させないで、様々な島に分散させているのはとても面白かったです。なぜかという、自分で行ったことがない島に行き、心地よい空気を浴びながら見回すのは気持ちがよくなるからです。それに、予想外のところに素敵な芸術作品を発見したら、更に気持ちがよくなるのではないのでしょうか。芸術家は自分が届けたい気持ちを入れた作品を多様性がある自然風景に上手く溶け込ませました。そして、新しい風景が生まれました。これは瀬戸内芸術祭の最も良いところだと思います。一番印象的なのは直島に位置し、日本を代表する建築家の安藤忠雄さんによって設計された地中美術館です。その中に世界各国の芸術家の作品が展示されています。地中美術館に入る前に、まずその建物に驚かされました。美術館というか、その建築自体は芸術作品だと思います。綺麗に環境と一つになっている地中美術館は山の中に埋設されています。そして、その美術館に展示していた作品の中で、一番好きなのは「ジェームズ・タレル」による芸術品です。芸術家は私が考えられない方法で空間と光線を巧みに利用し、その二つの要素があいまって、素晴らしい作

品を作りました。まるで自分自身が芸術品の一部であると感じさせるような空間は目が覚めるほど美しいと思います。とても良い思い出になりました。

時間の流れとともに人間同士がお互いに影響を与えたり、受けたりしていた歴史も美しさの一つだと思います。私は香川県丸亀市にある丸亀城に行きました。もともとは戦略のために作れたお城が観光スポットになりました。もう平和になり、戦争なども見られない現在は、お城の中でちょっと見回せば微かに昔日の影も見えます。丸亀城の頂部の本丸にある天守は全日本に12しか残っていない木造天守の一つだそうです。私が天守の最上階に上り、その窓から眺めたのは、抜けるような青空を包み込んでいた丸亀市や瀬戸内の風景です。広がっている絵のような景色を見たら、心も穏やかになりました。

日本へ来てから三か月未満の私にとって、香川県にはきっといろいろな私が知らないところがあります。これからたくさんの町に行き、もっと香川県の良いところを発見しようと思います。もし日本文化や自然風景などに興味があるなら、一緒に香川県の美しさを体験しましょう。

「魅力的な香川」

香川大学 経済学部 邱 意婷

湓 真理大学に入って、日本語の勉強を始めてから三年ぐらい経ちました。二年生の時、日本に留学することを決めました。そして、今香川大学の留学生として、香川県で留学生活を始めています。

香川県は日本で一番小さい県で、日本の四国に位置しています。香川から台北までは飛行機で2時間40分ぐらいかかります。来る前に、香川県は田舎と思っていた。しかし、香川に来て以来、だんだん変わってきました。香川県は都市の持つ利便性と豊かな自然景観が結びついています。瀬戸内海に面している香川県は、対岸の中国地方と瀬戸大橋を介して繋がっているため、地域的な結びつきも強くなりました。また、瀬戸内海にある110余りの島々も、香川県に属しています。今まで、直島や女木島などいろいろなところへ行きました。でも私のおすすめの観光スポットは「栗林公園」と「金刀比羅宮」です。国の特別景勝に指定されている栗林公園では、春と秋にライトアップを行っています。浮かび上がる色鮮やかな紅葉を堪能できます。江戸時代に作られた栗林公園で、香川の美しさを感じられると思います。「金刀比羅宮」は香川県の琴平町に位置して、江戸時代には「一生に一度はお参りすべき神社」と言われていたほど、日本人には馴染み深い場所。そして、参拝者の体力と信心が試される長く続く参道の石段が有名で、奥社まで登ると1368段もあります。1368段の階段を登り終えたら、高い位置から瀬戸大橋の絶景を眺めることができます。ここまで登って来た苦労が全て報われたと感じられると思います。行く前に通ることになる参道は、日本らしい風情で、綺麗です。日本の歴史と文化が好きな台湾人にとって、「栗林公園」と「金刀比羅宮」は一見の価値があると思います。

台湾には美味しい食べ物がたくさんあります。そして、日本の美食もよく食べられます。例えば、台湾人にとって大人気な日本料理「讃岐烏龍麵」といううどんは有名です。しかし、この有名なうどんが香川県産地であることを、台湾人はほとんど知りません。そして、うどんの産地として、香川県は「うどん県」と呼ばれています。香川県民にとって、うどんは「ソウルフード」で、特別な感情を持っています。お昼に外食する必要があるなら、「どこのうどん屋行く？」が合言葉です。それから、香川にも「中野うどん学校」などのうどん作りを体験できる学校があります。食べるだけでは飽き足りなくて、自分の力で作ったうどんは、もっと美味しく

なるでしょう。うどん好きな台湾人は、香川県に来るなら、香川の食文化を体験して、台湾よりもっと本場のうどんを食べてみてください。

日本の姿は、大きい都市より地方でもっと感じられると思います。それも私が香川に留学を選んだ理由なのです。香川県では、四季の移ろいを五感で感じられて、いつでも自然に囲まれることができます。それから、独特の食文化も持っています。この日本最小で、魅力れる香川県は、来る甲斐が絶対あると思います。

「香川県でサイクリングしてみませんか」

穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 EDYANTO

現在多くの交通手段が存在しており、ユーザーはそれぞれの目的に合わせて交通機関を選択することで便利な生活を來ることができます。私の母国であるインドネシアでは、大抵の場合、バイクや車が移動手段として使われています。一方、先進国である日本は、電車やバスの交通網が非常に発達しており、これらは非常に信頼性の高い交通機関として知られています。

自転車は、子供から学生、会社員、教師、医師、お年寄りの方など、職種や年齢を問わず幅広く利用されています。私が普段自転車を利用するときは、買い物やアルバイト、通学する時であり、それらは大抵数分圏内で済みます。しかし二年間留学生として香川県で生活している中で、時には数時間近く自転車のペダルを漕いで山や海に向かうこともありました。このように、日本で最も面積の小さい香川県だからこそ、自転車に乗っていつでも気軽に足を伸ばすことができるため香川県に住んでいる人にとって自転車は必需品であると言えるのではないのでしょうか。

このような自転車の便利な側面は香川県の自転車に対する安全対策によって支えられています。安全性のルールに関してはユーザーが快適に自転車をしようすることができるように政府によって規制が設けられています。例えば、歩道には自転車専用のスペースを設けていたり、駐輪場は多くのユーザーが使用できるように、十分な空間が保たれています。大きな道路では自転車とともにエレベーターに乗ることもできます。

自治体の職員は自転車ユーザーがいつもルールを守り、自転車による事故の減少や歩行者の妨げにならないように全力を尽くしています。例えば、店の前では自転車は決められた場所にのみ自転車を止めることができます。香川県には無料駐輪場と有料駐輪場があります。有料駐輪場ではセキュリティがしっかりしているため、数日間駐輪場を利用したとしても自転車を紛失するのではないかという心配がなくなります。

指定の場所以外に自転車を放置した場合、県の役員の人たちによる口頭での注意の後、紙による警告があり、一定以上時間が過ぎると自転車が撤去され、指定の場所に保管されます。ネパール人の友達が丸亀に行く時に高松駅に自転車を数時間放

置いていたところ、帰ってきた時にはすでに自転車は撤去されており、保管場所まで取りに行かなくてはなりませんでした。そこでは、書類とともに放置自転車受け取り代を払いました。このようなシステムによって、人々が指定外区域に自転車を放置することを防ぐことができます。

香川で自転車の安全性を提供するためのルールとして、防犯登録のシステムがあります。新しい自転車や中古自転車を購入する際に、私たちは自分の名前と住所、購入した自転車の登録号や日付などを紙に記入し、データとして保存されます。そして、万が一、何か問題があった場合は警察が番号をもってして追跡することができます。このシステムの便利さを日本人の友達が経験しました。その友達は高松市の瓦町付近のドラッグストアの前に自転車のカギをし忘れた状態で駐輪しており、自転車をなくしました。数日後に、午後二時頃に警察によって発見されたため、料金を支払わずに自転車を返してもらうことができました。このことから、香川県の自転車セキュリティシステムが非常に良いことが確認されました。

安全性、快適さ、設備やルールに関する全てのきまりが、インドネシアに適用することができれば、香川県同様にインドネシアでも自転車ユーザーが快適に自転車ライフを過ごせることが容易に想像できます。その日が来るまで、いつでも、どこでも、誰とでも香川でサイクリングをしましょう。

「大好きなサンポート」

穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 NEUPANE SHREEDHAR

ネパールで日本語を勉強していたとき、日本のどの町に留学するかは決めていませんでした。いっしょに勉強していた友達が香川に行くことになったので、それなら私もと思って、留学先を香川にしました。ですから、どんなところかまったく知らずに香川に来ました。

2015年3月26日の夜11時半ぐらいに香川に着きました。当然真っ暗で何も見えなかったし、疲れていたのも、特に1日目は何も思いませんでした。寮の部屋に入って、すぐ寝ました。朝になって外に出てみると、少し寒かったです。ゆっくり周りを歩いてみると、高いビルがありました。それに、きのうは暗くて全然気づきませんでしたが、近くに海もありました。初めて海を見たので、とてもうれしくて興奮したのを覚えています。

香川に来て、もう一年半くらいたったので、いろいろなことができるようになりました。学校のイベントで、玉藻公園やこんぴらさんや屋島や四国村へも行きました。屋島に登ったときは天気がよかったので、遠くまでよく見えました。海や山や川や町が全部見えて、とてもきれいでした。香川についての知識もすこしずつ増えました。

そんな中で、私が香川で一番いいと思うのは瀬戸内海です。とてもおだやかで、島がたくさんあって、とてもいい風景だと思います。自分の国には海がないので、初めて海を見たときはネパールの人みんなに見せてあげたいと本気で思いました。たまたま私はサンポートへ海を見に行きますが、海を見ているだけで、元気がない時でも気持ちがよくなります。

サンポートには広い場所があるし、きれいなビルもあるし、散歩ができる長い道もあります。夕方にはたくさんの人が遊びに来ています。ときどき大きい船がとまっているときもあります。こんなに大きい船は見たことがありませんから、ずっと見ていたくなります。週末にはお祭りもやっています。食べ物のお店もいっぱい並んで、たくさんの人が集まってにぎやかになります。

私の国には海はありませんが、大きい川があります。もしその川に近くに、サンポートのようなものを造るともっときれいな町になると思います。川に沿って道や公園を作ると、たくさんの人たちが遊びに来て、経済もよくなるかもしれません。ネパールの川や湖や山はけわしいイメージがありますが、これからはもっと気軽に

自然を感じる場所も欲しいと思います。そこに住んでいる人だけではなく、観光客も増えるでしょう。高松でサンポートを見て、そう思いました。

香川は東京のように便利な町ではありません。新幹線も地下鉄もないし、空港も遠くて不便です。でも、香川にはいっぱい有名なものやきれいなところがあります。ネパールにいたときは、香川について何も知りませんでしたが、今は香川に来て本当によかったと思います。来年3月には、残念ながら香川を離れるかもしれませんが、次の町に行っても香川のことは絶対に忘れません。そして、香川を知らない人に、香川のいいところをたくさん紹介してあげようと思います。

「交流がもっと広がっていく道へ」

穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 MATIAS CINTI NOEMI

今までアルゼンチンで日本との交流は広がってきました。これは色々な日本人と日系人の県人会、日本語学校、日本の大使館などの活動のおかげです。一方、アルゼンチン人も日本人の価値観と文化にすごく興味を持っています。

日本へ来る前、私は日本人がアルゼンチンについてあまり知らないと思っていました。しかし、日本へ来て、自分の国の名前を言うと、日本人はすぐに「メッシ」や「パタゴニア」や「タンゴ」などを言ってくれます。

日本人は皆メッシのことをほめたたえます。しかし、その話題では交流できますが、有名なこと以外、日本人はアルゼンチンの文化、生活についてあまり知らないと思います。一方、日本の文化について知っていると思うアルゼンチン人もたいていまちがっています。「日本人は毎日寿司を食べる」とか、そんなことは正しいわけがありません。それは日本人か日系人と話したことがないアルゼンチン人にとって、テレビとかインターネットの情報しかないからです。

今までの交流は『その国の文化について興味がある国民』のための交流だったと思います。前もってその国について興味があって、その国に関する団体に参加すると、交流が始められます。しかし、普通の人々はこの団体を知らないので、参加することもできません。交流のはじまりは偶然でおこります。これはどちらの国でも同じだと思います。

それで、ある広場や道で開かれる外国人が参加するイベントは交流のため非常に良いことだと思います。このイベントでは関係者だけではなく、通行人も参加して、交流することができるのは素晴らしいです。

私達はその国の文化に関係のある人達として、出来る所から手助けをしないとけません。イベントに参加するだけでなく、このイベントと文化を積極的に知り合い以外の人に伝えなければなりません。このように、「偶然でこの文化を知っている人」達に私達はその偶然を起こせると信じています。

「私の国と日本の交流についての考え」

穴吹ビジネスカレッジ 日本語学科 DANG NGOC THUY VI

私の大学は毎年色々なお祭りを行っています。たとえば、ミニフエ祭りです。ミニフエには色々な料理を作ったり、紙人形を作ったり、はがきをつくったり、ゲームを作ったりしました。とても面白いと思います。それに日本人についての発表会も行っていました。発表の内容は日本に関してユニークで面白い内容です。特に天災を乗り越える日本人の強さについての発表はとてもすばらしかったです。その活動を通じて日本の文化についてよくわかるようになりました。

日本へ来て、ベトナムと日本の交流について初めにいくら分かっていましたが、日本に来てからも、日本語学科で勉強していて、毎日日本人の先生に会って、日本語だけでなくいい文化や習慣がさらによくわかるようになりました。たとえば、時間を守る文化や仕事をきちんとこなす様子や会った時あいさつする文化等です。面白い知識がたくさんあって、ミニフエ祭りに役に立つ体験を過ごせて、嬉しくて、もっと体験したいと思います。

わたしとしては、日本政府からベトナム人学生に奨学金を出して、両国の学生といっしょに勉強をし、文化やお祭りを通して交流をすすめていくべきだと思います。それに勉強だけでなく交流会や友だちと話す時に、私の国の素晴らしいことを伝え、色々な料理や有名な所などを紹介したいと思います。

日本の大学院を卒業した後で、ベトナムに帰って、ベトナムと日本の交流会を作りたいと思います。交流会を通じてみんなに日本で勉強したことを伝えたくて、その会ではみんないっしょに日本の文化や日本語が学べるような交流をしたいです。私としてはそれはとてもいいことだと思います。

「高松市と瀬戸内海のツアー」

香川大学 経済学部 KEVIN QUETSCH

私は日本の高松市にある香川大学に留学しているので、高松市の町と周辺を紹介します。

香川県は四国にあり、県庁所在地は高松市です。今、高松市の人口は 420,931 人です。高松港は瀬戸内海にあります。大切な港ですから、江戸時代に大名が城を建設しました。その歴史は町の博物館で見ることができます。博物館は文化や美術を展示しています。文化や伝統について学ぶ良い機会です。「四国村」には古いスタイルの家がたくさんあります。昔の人の住み方について勉強するためにとても便利で、面白いと思います。高松に日本式の庭もあり、名前は「栗林公園」です。色んな季節には、代表的な花が咲くのを見ることができます。この公園は一年中美しいです。春に桜のお花見のために、秋に紅葉狩りのために完璧な所だと思います。四国には 88 のお寺にお参りする四国遍路があり、22 は香川県にあります。

高松から瀬戸内海の島へ行けます。この島の景色はとても素晴らしく綺麗です。3 年ごとに「瀬戸内国際芸術祭」があります。美術と島を発見できます。島が 12 参加します。その島のひとつが小豆島です。小豆島はオリーブとオリーブの製品で有名です。更に、小豆島は日本で最初にオリーブを栽培するのに成功しました。それに紅葉を見るのにいい所で、木の色が綺麗です。島へのトリップは楽しいです。ドイツにこの島の風景がありません。

香川県の有名な食べ物は色々あります。例えば「さぬきうどん」。「さぬき」は香川県の古い名前です。そのうどんは普通ヌードルスープと一緒に盛りつけをされています。とてもおいしく、香川県の典型的な味を呈します。甘い物もあります。「和三盆」は砂糖で、竹糖と竹蔗から作られます。お菓子を作ることとコーヒーを甘くすることのために使われます。他の香川県の名物は骨付き鳥と素麺です。とてもおいしいので、推薦します。

このような理由で、多面的な日本の文化と伝統を体験したい人に香川県を勧めます。

「さぬきうどんとさぬきうどんの歴史」

香川大学 工学研究科 LEE JOO-HYEONG

日本の方なら香川県と言えばやはりさぬきうどんが最初に思いつく。しかし韓国からきた私はここに来る前に日本の香川県についてはまったく知らなかった。最初にここにきてびっくりしたのは香川県のうどん屋さんは韓国のファストフード店よりも多いという点である。うどんの味も韓国のうどんと全然違い、販売する方式も韓国とは全く違っていた。韓国のうどんなら汁がうどんの麺よりも重要なので、いろいろな汁や具を使用したうどんが多い。例えばキムチや唐辛子を入れたキムチうどん、シーフードや野菜を入れたシーフードうどん、牛肉や豚肉を入れた肉うどんなどがたくさんある。また、韓国のうどんは普通石で作られた食器で食べる。これは食べているときに汁が冷えるのを防ぐためだ。しかし、日本のうどんは汁より麺が重要で韓国にはないつけ麺や冷やしで食べる方法などがある。そのため同じうどんだけれども、なぜこんなに食べ方が異なるのかを知るために、まず、さぬきうどんの歴史を調べた。さぬきうどんの歴史は、私が時々昼ご飯を食べに行く香川大学工学部の前にある「たも屋」というお店の月刊雑誌と、韓国の本や日本のネットなどを見て調べた。

さぬきうどんの歴史は、今から 1200 年前に始まった。中国との交易を介して独自の文化を花咲かせた平安時代に多くの人が唐へ留学に行った。香川県出身であり、真言宗（日本仏教の宗派の一つ）の創始者で有名な弘法大師もそのような人物の一人で 804 年、彼が 31 歳になった年に唐に渡り、1 年以上長安（唐の首都）に留まって仏法を身につけた。そして 2 年後の 806 年に日本に帰ってきてうどんの製造技術を導入した。耕地面積が狭くて稲作がうまくいかず、降水量が少なく、当時の農民は貧困にあえいでいた。しかし、これらの地形条件は、良質の小麦を生産するのに最適な条件であり、特に江戸時代初期、二毛作が一般化され、小麦の生産量が指数関数的に増えに、これにより一般家庭での食事にうどんが出てきて、店舗などでもうどんが売られるようになった。今日さぬきうどんは、香川県内で製造されたもの、手打ちで製造すること、水は 40%以上、塩は 3%以上入っていて 2 時間以上熟成させるなどのように厳密な定義に基づいて作られており、さぬきうどんという名称自体に誇りを持って、誠意を尽くしてうどんを作るお店が多い。

韓国うどんの歴史については、伝えられていることがあまりないが、高麗時代に中国からの使者たちから麺文化が伝えられ、中華麺料理が発達するようになったと

言われている。今韓国の麺料理は冷麺、チャンチ麺、うどんなど多くの種類に発展し、各料理ごとに食べる季節、場所が違ふ。冷麺は、一般的に、夏に食べ、韓国焼肉料理の後に食べることが多い。チャンチ麺のチャンチは日本語で「宴会」という意味で、通常は家の喜ばしいやイベントがある場合に食べる。うどんは寒い冬に体を温めるために食べる料理で、熱くして食べるのが普通である。このようにうどんの形と味の特徴は、中国や韓国、日本では非常に異なっている。最も顕著な特徴としては、中国の麺類は麺よりも、ソースに中心を置き、韓国の特徴は、添えられた食材にふさわしい形で発展しており、日本は麺の味に中心を置くことで発展してきた。韓国では四国がまだ有名な観光地ではないが、最近、韓国の忙しい日常に疲れた人々がどんどん四国を訪問している。このような日本だけの独特なうどんの味や文化を私の母国である家族や韓国人の友達にも紹介してあげたいと思った。

「インドネシアと日本」

高松大学 経学部 ANDY ACHMAD RIVALDI

日本はアジアでも世界でも先進国だ。私の国「インドネシア」では、日本は、「桜の国」と呼ばれている。

昔、インドネシアは日本の属国になっていた。しかし、時間が経過し、インドネシアと日本は平和のポイントを発見した。現在では良好な外交関係を維持し、二国間の協力関係を確立している。

インドネシアは日本を必要とし、また、日本もインドネシアを必要とする。1958年以来、現在までにインドネシアと日本の協力は、縦統的に、発展的に実行されている。協力の様々なセクターは、インドネシアと日本の両方によって、経済、教育、文化、さらには取引の文化の中で行われている。

日本に対するインドネシアの外交は、インドネシアが行った外交の成功例の一つだ。日本は、資金調達の面で、建築やインフラ面で、インドネシアへの支援を提供してきた。特に、経済的、社会的、政治的分野でインドネシアは日本の協力で多くのプロジェクトを行っている。

協力の中で、教育と文化は、最も顕著な成功例だ。日本は高教育を追求するインドネシアの学生にとって、あこがれの国の一つだ。そして、多くの日本人学生がインドネシアで教育を受けている。彼らはインドネシアの文化を学んでいる。

インドネシア人は日本の文化を称賛する。例えば時間を守ることとか、真面目さとかである。ほかに面白い文化も好きだ。例えばアニメとか、漫画とか、いろいろな日本の文化をインドネシアの人々が称賛している。また、日本人もインドネシアの文化が好きだ。インドネシアに来る多くの日本人旅行者はインドネシアの文化の多様性を見る。

インドネシアと日本が行った協力のは、様々な分野両国関係をより良くし、対等なパートナーにしている。

「母国の人に紹介したい香川の良さ」

香川大学 農学研究科 AFROZA SULTANA

香川、日本の南西の島、とてもきれいな場所の名前です。日本の 47 県の中でいちばん小さい県です。だいたい 9、77、000 人が住んでいるところです。香川県のほかの名前はうどん県です。前の名前はさぬき県でした。だから、今でも香川のうどんはさぬきうどんと呼びます。ゆうめいなうどんです。ほんとにとってもおいしいです。香川についてほかのゆうめいなことはサッカーです。

私は香川に 2 年ぐらい住んでいます。これははじめて自分の国とかぞくの外に住んだ長い時間です。ここに来る前日本のせいかつについておもっていつも心配しました。だれも私の友だちにならないとおもいました。日本のせいかつはとてもむずかしいとおもいました。今のうれしいことは私がおもった心配はうそになりました。

香川のきれいなところへいったことがあります。たとえばなお島、小豆島、こんぴら、まんのうこうえん、さぬきこどもの国、やしまじんじゃ、サンポート高松、りつりんこうえん。小豆島へいったあとにそのところを見ながらうれしくなりました。私が見えるところはみどりでした。私もみどりになるとおもいました。サンポートへいくとき海のたくさんきれいな水をみていつも自分の悲しいことがわすれることができます。日本のにぎやかなところへいったこともあります。たとえば東京、北海道、ぎふ県。そのところへ 1 週間ごろ住めますでも長い時間住んでるところだと香川が大好きです。

香川大学のさいわい町で日本語を勉強するとき先生たちと友だちはいいかぞくになりました。だから私は自分のかぞくのこととはあまりおもいだしませんでした。ぜんぜんさびしくなかったです。香川県のいなか場所三木町にすむことができてこううんだとおもいます。このところはいちばんきれいなところですよ。私は水田のにおいがにおえます。私の国とおなじにおいです。今の住んでるへやのまどから水田とフ

ラワーガーデンが見えます。かぞくとくにのことおもいだすときまどをあげてそとを見てだんだんうれしくなります。

香川県の人もしんせつです。みじかい時間にもいい友だちになれます。日本へ来てときどき私の住所をわすれてしまいました。そのときいつも日本人がてつだってくれました。

この小さいかみに香川のうつくしいことを書くことはむずかしいです。さいごに、国へ帰って香川のことはいつもおぼえます。香川は私の2ばんめの家になりましたから。



第十三回 外国人留学生作文コンテスト
入賞作品集

編集・発行 香川県留学生等国際交流連絡協議会

【発行】 平成29年1月

【問合せ】 香川大学国際グループ
〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
TEL 087-832-1194
FAX 087-832-1192